

秋田県埋蔵文化財センター年報

10

平成3年度

1992・3

秋田県埋蔵文化財センター



払田柵跡 第90次調査 掘立柱建物跡と板塀跡（北から）



虫内Ⅰ遺跡 土器埋設遺構（土器棺墓）



土偶

岩版

鳥形土製品

虫内 I 遺跡 出土遺物



待入 III 遺跡 中世の掘立柱建物跡 (西から)



山王岱遺跡 空堀と土塁の調査風景（東から）



上野遺跡 出土土器 擦文土器と把手付土器



家ノ後遺跡 粘土採掘坑跡の調査風景（東から）



家ノ後遺跡 出土土器

序

埋蔵文化財センターの仕事の一つである発掘調査には、予想もしていなかった事実が発見されることがあります。今年には二つの遺跡からそのような出来事がありました。一つは上野遺跡（大館市）から擦文土器が発見されたこと、他の一つは家ノ後遺跡（大館市）から縄文時代の粘土採掘坑が検出されたことです。

このような結果は、職員の日常の研鑽と調査研究に対する熱意と注意力によるものと考え喜んでおります。発掘調査は遺跡を破壊しながら土に刻まれた歴史情報を引き出す作業で、それは優しいものではありません。先入観を捨て、いろいろな仮説を立てて遺跡に向かわねば遺跡は何も語ってはくれません。

私共は今まで、いろいろな遺跡を発掘調査し歴史の情報を引き出し、資料化する作業を実施してきました。その資料は、広く活用されております。

本年報は、今年度発掘調査を実施した遺跡の概要と、埋蔵文化財センターの一年間の活動をまとめたものです。ご活用いただくとともに、今後とも当センターへのご指導ご協力をお願い申し上げます。

平成4年3月15日

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 富樫 泰時

例 言

- 1 本書は、平成3年度における秋田県埋蔵文化財センターの活動内容をまとめたものである。

目 次

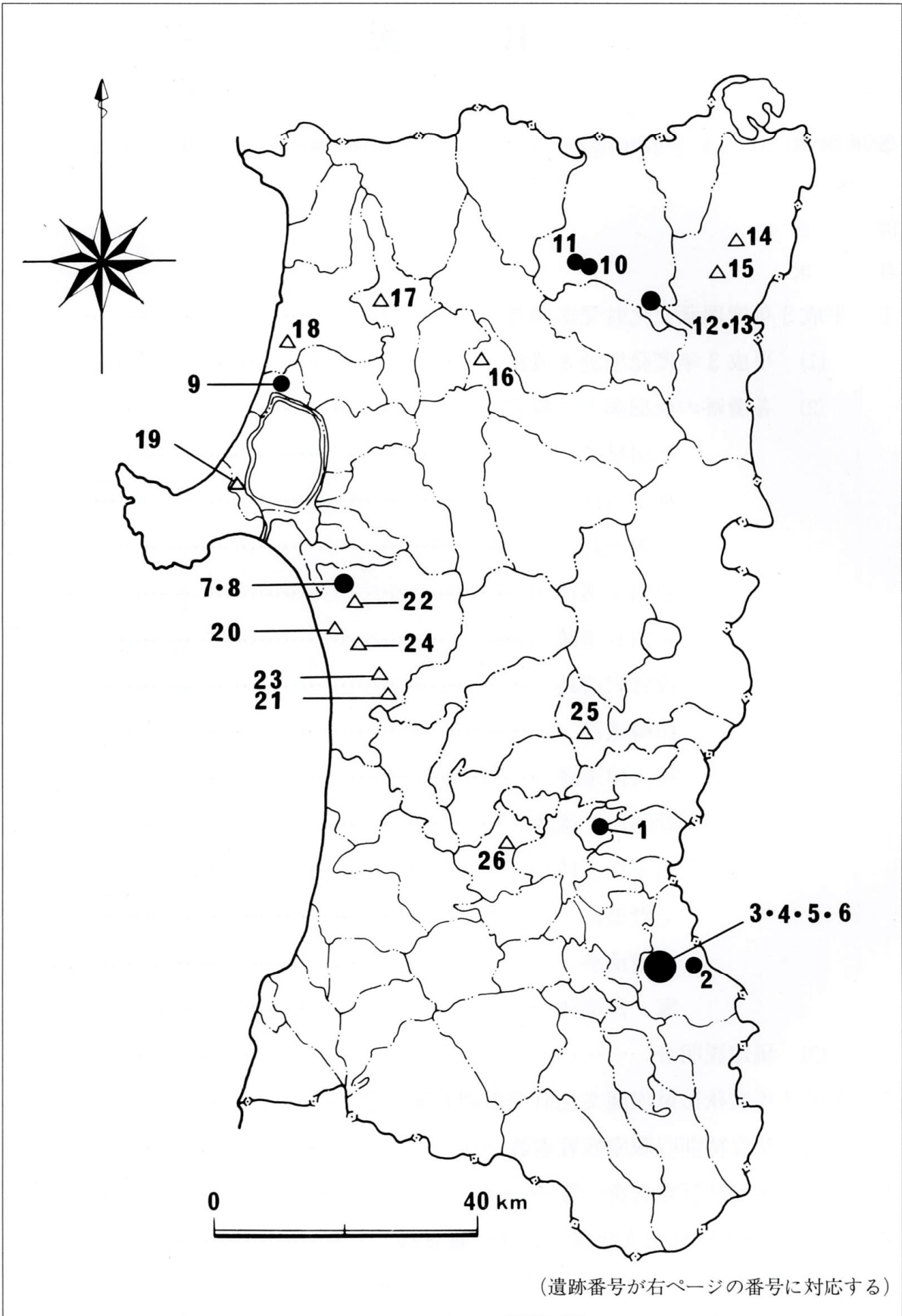
巻頭 函 版

序

例 言

目 次

1	平成3年度埋蔵文化財発掘調査	1
(1)	平成3年度発掘調査遺跡	1
(2)	各遺跡の発掘調査の概要	2
	払田柵跡	2
	越上遺跡	2
	岩瀬遺跡	3
	虫内Ⅰ遺跡	3
	虫内Ⅱ遺跡	4
	茂竹沢遺跡	4
	山崎遺跡	5
	待入Ⅲ遺跡	6
	萱刈沢Ⅰ遺跡	6
	山王岱遺跡	7
	上野遺跡	7
	上聖遺跡	8
	家ノ後遺跡	8
(3)	現地説明会	9
2	平成3年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	10
3	平成3年度特別収蔵庫観覧者数	13
4	平成3年度刊行報告書一覧	13
	平成3年度 秋田県埋蔵文化財センター職員録	14



平成3年度 県内発掘調査遺跡位置図

1 平成3年度 埋蔵文化財発掘調査

(1) 平成3年度発掘調査遺跡

平成3年度に、秋田県教育委員会及び県内各市町村・国立歴史民俗博物館が主体となって秋田県内で行った遺跡の発掘調査は、以下のとおりである。

平成3年度 県内遺跡発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査主体者	原因事業名	主な時代
1	払田柵跡	仙北町 千畑町	4月10日～11月13日	1,770㎡	秋田県教育委員会	学術調査	平安
2	越上遺跡	山内村	6月5日～6月21日	250㎡	秋田県教育委員会	東北横断自動車道秋田線建設事業	縄文(後)
3	岩瀬遺跡	山内村	5月27日～11月22日	1,580㎡	秋田県教育委員会	東北横断自動車道秋田線建設事業	縄文(早～中)
4	虫内Ⅰ遺跡	山内村	5月20日～12月7日	1,300㎡	秋田県教育委員会	東北横断自動車道秋田線建設事業	縄文(後・晩)
5	虫内Ⅱ遺跡	山内村	5月20日～7月26日	2,800㎡	秋田県教育委員会	東北横断自動車道秋田線建設事業	縄文(後・晩)
6	茂竹沢遺跡	山内村	7月29日～10月31日	2,800㎡	秋田県教育委員会	東北横断自動車道秋田線建設事業	縄文(前・後)・中近世
7	山崎遺跡	秋田市	5月8日～6月14日	750㎡	秋田県教育委員会	秋田外環状道路建設事業	平安
8	待入Ⅲ遺跡	秋田市	6月17日～9月19日	5,800㎡	秋田県教育委員会	秋田外環状道路建設事業	奈良・平安・中世
9	萱刈沢Ⅰ遺跡	八竜町	10月14日～11月15日	800㎡	秋田県教育委員会	国道7号琴丘・能代道路建設事業	縄文(前～後)
10	山王岱遺跡	大館市	5月13日～11月9日	10,200㎡	秋田県教育委員会	国道103号道路改良事業	縄文(中・後)・平安・中世
11	上野遺跡	大館市	8月19日～11月22日	2,830㎡	秋田県教育委員会	国道103号道路改良事業	縄文(前～後)・平安
12	上聖遺跡	大館市	5月10日～6月8日	760㎡	秋田県教育委員会	曲田地区農免農道整備事業	縄文(前～晩)
13	家ノ後遺跡	大館市	6月10日～11月15日	2,800㎡	秋田県教育委員会	曲田地区農免農道整備事業	縄文(後・晩)
14	大湯環状列石周辺遺跡	鹿角市	7月1日～11月28日	1,519㎡	鹿角市教育委員会	学術調査	縄文(後)
15	小枝指館跡	鹿角市	4月15日～6月25日	1,829㎡	鹿角市教育委員会	市道建設事業	奈良・中世
16	諏訪岱遺跡	森吉町	7月22日～8月30日	1,400㎡	森吉町教育委員会	河川改修に伴う流路溝建設	縄文(中)・平安
17	烏野遺跡	二ツ井町	5月13日～11月26日	2,134㎡	二ツ井町教育委員会	工場用地造成	縄文(中)・平安
18	寒川Ⅱ遺跡	能代市	10月15日～11月30日	600㎡	国立歴史民俗博物館	学術調査	平安
19	中角境遺跡	若美町	11月11日～12月4日	1,010㎡	若美町教育委員会	体育施設造成	平安
20	秋田城跡	秋田市	4月10日～11月21日	2,060㎡	秋田市教育委員会	学術調査	奈良・平安
21	秋大農場南遺跡	秋田市	4月18日～12月17日	6,800㎡	秋田市教育委員会	新都市開発建設事業	旧・縄文(中・後)・平安
22	上新城中学校遺跡	秋田市	7月24日～10月31日	1,500㎡	秋田市教育委員会	校舎改築	縄文(晩)
23	諏訪ノ沢遺跡	秋田市	4月22日～7月19日	3,000㎡	秋田市教育委員会	宅地造成	平安
24	久保田城跡	秋田市	12月8日～H4.1月8日	108㎡	秋田市教育委員会	市史料館増築	近世
25	中泊Ⅱ遺跡	角館町	5月30日～6月5日	600㎡	角館町教育委員会	校舎建築造成	縄文(前)・近世
26	桧山腰遺跡	南外村	6月2日～9月5日	1,000㎡	南外村教育委員会	公園建設事業	中世

※ 旧=旧石器、縄文の()内は、早=早期 前=前期 中=中期 後=後期 晩=晩期である。

(2) 各遺跡の発掘調査の概要

ほったのさくあと 弘田柵跡

所在地	仙北郡仙北町弘田・千畑町本堂城回	事業名	学術調査
調査期間	平成3年4月10日～11月13日	事業関係機関	秋田県教育庁弘田柵跡調査事務所
調査面積	1,770㎡	調査担当者	児玉 準

第88～91次にわたる調査を行った。第88次調査は、外郭線南東部の角材列の調査で、密接する角材16本を検出し、そのうち7本を抜きあげた。第89次調査は、政庁域北側斜面裾部の調査で、区画施設の検出を目的としたが、明確な区画施設は検出されなかった。

第90次調査は、内郭東部丘陵上の利用状況の解明を目的に、政庁域の東側約100mにある平坦面の調査を行ったものである。その結果、平安時代（ことわりのある場合は縄文時代）の竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡4棟、柱列3条、土坑33基（一部縄文時代のものを含む）、溝状遺構33条、陥し穴状遺構5基（縄文時代）、その他2基の計89基の遺構が検出され、平安時代の遺物の他に縄文時代（晩期）の遺物が出土した。これらの遺構群の変遷は、9世紀前半頃に竪穴住居跡群があり、これを壊す形で掘立柱建物跡が建てられ、それが9世紀後半頃まで続き、10世紀代に調査区の南部に板塀が造られたと考えられる。掘立柱建物の中には、桁行5間（14.7m）×梁行2間（6.8m）の規模のものもあり、これは政庁II～IV期の東脇殿とほぼ同規模である。板塀によって区画された内側の遺構は、今回の調査区のさらに南側に存在するものと思われる。

第91次調査は、仙北町の環境整備事業に伴う外郭南門南側の調査である。道路跡の検出を目的としたが、検出されなかった。

こしがみ 越上遺跡

所在地	平鹿郡山内村黒沢字越上45	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	平成3年6月5日～6月21日	調査関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	250㎡	調査担当者	大野憲司・工藤 晃

遺跡は、横手川の一支流である黒沢川の河岸段丘上に立地している。遺跡付近における黒沢川は、峡谷の中で蛇行を繰り返しており、遺跡は、蛇行部内側の舌状台地上にある。この舌状台地の略平坦面の広さは、南北約120m、東西50～100mで、遺跡の規模もこの程度と考えられる。今回の発掘調査区は、橋脚予定部分に限られており、遺跡南東端部に当たる。

調査の結果、上位平坦面端部から縄文時代後期前葉～中葉の土坑1基、上位平坦面から中位平坦面にかけての小さな斜面から同時期の捨て場1カ所が検出され、該期の遺物がコンテナ10箱出土した。土坑は、長径1.15m、短径0.95m、深さ1.05mの規模で、その性格については不

明である。捨て場からは片口土器や鉢形土器、壺形土器の他、多数の粗製深鉢形土器と少量の石器が出土した。以上のことから越上遺跡は、三方を川で囲まれた舌状台地上に営まれた縄文時代後期前葉～中葉の集落跡であると推定される。

いわせ
岩瀬遺跡

所在地	平鹿郡山内村土淵字岩瀬144-1外	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	平成3年5月27日～11月22日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	1,580m ²	調査担当者	利部 修・小林恵美子

遺跡は、東～南～西側を横手川の現流路と旧流路によって囲まれた舌状台地上にあり、直径約200mの半円状を呈する範囲と推定される。今回の調査区は遺跡の南端部に当たり、今年度はそのうち西側部分を調査した。遺跡の西方には、横手川を挟んで虫内Ⅰ・Ⅱ遺跡が位置する。

調査の結果、遺跡は横手川の川辺りにあって、度々の洪水によって土砂で覆われることが多かったため、砂や砂礫で構成される層が幾重にも厚く堆積しており、少なくとも10面の縄文時代早期～中期の文化層の存在することが判明した。検出された遺構は、竪穴住居跡2軒、焼土遺構10基、土坑14基、集石遺構8基、石器集中部20カ所、石器・土器集中部1カ所で、コンテナ55箱の遺物が出土した。各遺構の帰属時期は不明なものも多いが、竪穴住居跡は前期前葉、集石遺構は早～前期である。遺物は早・前期を主体にし、中期から晩期までであるが、早期の層の下にある砂礫層（岩盤の直上）中からも石器・剥片が出土しており、早期以前のものも存在する可能性がある。遺物は、土器に比べて石器が多く、特に石器では、裏面に主要剥離面を残して縁辺にのみ連続的な剥離を施した石筥が目立っている。以上のことから岩瀬遺跡は、洪水の影響を度々受けるような川辺りに縄文時代早期から中期の人々が訪れ、短期間の生活を営んだ遺跡であると推定される。なお本遺跡は、平成4年度も継続して調査を行う予定である。

むしない
虫内Ⅰ遺跡

所在地	平鹿郡山内村土淵字虫内45外	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	平成3年5月20日～12月7日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	1,300m ²	調査担当者	大野憲司・榮 一郎・高橋忠彦・利部 修・武藤祐浩・栗澤光男 工藤 晃・小林恵美子

遺跡は、横手川西側の河岸段丘上に立地しており、南～西側には標高200～300mの山地が迫っている。推定される遺跡の範囲は、東西・南北各180mの不整形を呈する部分で、計画路線部分は遺跡中央部やや南側に当たり、今年度の調査区はそのうちの東端部である。

調査の結果、縄文時代後期後半～晩期前半の土器埋設遺構（土器棺墓）139基、土坑196基、竪穴住居跡2軒、焼土遺構12基、配石遺構15基、柱穴様ピット140基、溝跡3条、その他の遺構

19基の計530遺構と捨て場2カ所が検出され、コンテナ974箱の遺物が出土した。土器埋設遺構は、死産児や嬰兒用の埋葬施設と考えられ、粗製深鉢形土器を成立させただけのもの、扁平な河原石や大きな土器破片で蓋をしたものなど、6種類の形態が見られる。これらの土器埋設遺構は、遺跡中央部から南側のほぼ全面に分布している。土坑の平面形には楕円形と円形の2種類がある。前者の全ては土壙墓と考えられ、調査区南東部に集中する。円形の土坑は、調査区南東部を除いた部分に存在し、多くの河原石が詰まっているものもある。円形の土坑で、ベンガラ^①の散布が見られるものや副葬遺物のあるものについては土壙墓とすることが出来るが、それらのないものについては、土壙墓か否か判然としない。捨て場からは、多量の土器・石器の他に土偶・鳥形土製品・岩版等が出土しており、前述した遺構群と重複している。以上のことから虫内I遺跡は、縄文時代後期後半～晩期前半の大規模な墓域で、予想される墓の数とその分布状況及び遺跡の範囲等から、該期の複数集落の共同墓地であった可能性もある。なお本遺跡は、平成4年度も継続して調査を行う予定である。

むしない
虫内II遺跡

所在地	平鹿郡山内村土淵字虫内17-1外	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	平成3年5月20日～7月26日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	2,800㎡	調査担当者	栗澤光男・武藤祐浩

遺跡は、虫内I遺跡と同じ段丘面上にあり、虫内I遺跡とは、遺跡東側が幅3～10mの浅い小さな沢によって画されており、西側は山地に連なる急な斜面である。

調査の結果、縄文時代の土坑9基、土器埋設遺構1基と時期不明の溝状遺構1条が検出され、前期・後期・晩期の遺物がコンテナで8箱出土した。土坑のうち1基は、直径1.2mの円形で底面に小穴を有する陥し穴状のもので、さらに別の1基は、長径0.96m×短径0.68mの楕円形を呈し、上部に数個の河原石を配した土壙墓である。この楕円形の土壙墓は、縄文時代後期後半～晩期前半のもの^②と見られ、土器埋設遺構と共に虫内I遺跡の墓域の一部を構成していた可能性もある。遺物は、土器に比べて石器・剥片が多く、特に石筥が多い。以上のことから虫内II遺跡は、縄文時代前期頃には小さな猟場となった時期があり、後期後半～晩期前半には虫内I遺跡の墓域の一部が及んだ可能性のある遺跡であると考えられる。

しげたけざわ
茂竹沢遺跡

所在地	平鹿郡山内村土淵字茂竹沢12外	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	平成3年7月29日～10月31日	事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所
調査面積	2,800㎡	調査担当者	武藤祐浩・栗澤光男

遺跡は、横手川の南側高位段丘上とこれに連なる山地の尾根部、及びその斜面と斜面下の略平坦面に立地する。遺跡の立地する高位段丘面は、幾筋かの沢によって開析されて全体に複雑な地形を呈し、遺跡の範囲の推定も難しいが、全体としては東西南北各々250m前後の略四角形を呈する範囲と考えられる。今回の調査区は、遺跡の南東隅部に当たり、段丘端部の略平坦面とその下方の斜面及び沢に面した略平坦面である。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒(後期)、フレーク集中出土箇所1カ所、柱穴様ピット3基、中世～近世の掘立柱建物跡3棟、石垣状遺構3基、土坑5基、敷石状遺構1基、配石礫1基、溝跡12条、その他時期不明の遺構8基等が検出され、縄文時代(前期・後期)と中・近世の遺物がコンテナで13箱出土した。中世～近世の掘立柱建物跡は、尾根裾部のゆるい斜面を「冂」形に削平・盛土して平坦面を作出し、その内側に構築したものである。建物跡の前面(沢側)には、「八」の字を呈する入り口部を持つ石垣状遺構を築いており、入り口部の前方には4本柱の門が取り付けられている。削平・盛土によって作出された平坦面の広さは、一辺20～30mの略方形で「冂」形部分の縁辺には溝が巡る。掘立柱建物跡の規模は12×16m前後で、部分的に張り出し部を持つものと推定され、少なくとも1回の建て替えが行われている。以上のことから茂竹沢遺跡の一部には、縄文時代後期前葉に小さな集落が営まれ、中世末～近世初め頃には比較的大きな屋敷様の建物が存在したことが判明した。

やまざき
山崎遺跡

所在地	秋田市下新城小友字山崎2-2、2-4	事業名	秋田外環状道路建設事業
調査期間	平成3年5月8日～6月14日	事業関係機関	建設省東北地方建設局秋田工事事務所
調査面積	750㎡	調査担当者	庄内昭男・小畑 巖

遺跡は、秋田市の北部、俎山山地から西に延びる丘陵端部の台地上に立地する。この台地は、東から西に延びる舌状を呈しており、東西約200m、南北20～80mの広さで、台地上全面が遺跡の範囲と考えられる。今回の調査区は、この台地の北東寄りに位置する。

調査の結果、大部分が平安時代に帰属すると考えられる竪穴遺構1基、掘立柱建物跡1棟、土坑17基、溝状遺構14条、柱穴289基が検出され、縄文時代・平安時代・中世の遺物がコンテナで3箱出土した。竪穴遺構は、一辺2.5mの方形プランと推測されるが、カマドや炉は検出されなかったものである。多数の柱穴は10世紀後半頃の建物になると考えられるが、復元できたのは、桁行3間(9.9m)×梁行1間(4.1m)の1棟である。円形や不整形を呈する土坑は、これら建物に付属する生活用具の廃棄場と考えられ、底面から数個体の坏が出土しているものがある。以上のことから本遺跡は、数棟の建物からなる10世紀後半頃の小規模な集落であったと推定される。

まちいり
待入III遺跡

所在地	秋田市金足片田字待入505外	事業名	秋田外環状道路建設事業
調査期間	平成3年6月17日～9月19日	事業関係機関	建設省東北地方建設局秋田工事事務所
調査面積	5,800m ²	調査担当者	庄内昭男・小畑 巖

遺跡は、秋田市の北部、俎山山地から西に延びる低い丘陵の西端部に立地している。遺跡の立地する丘陵端部は、西側に標高30～40mの馬背状の頂部が南北に連っており、遺跡はそれら頂部の東側斜面から裾にかけての起伏に富んだ地形部分であると推定される。今回の調査区は、推定される遺跡範囲のうち、南西端部を除くほぼ全面に当たると考えられ、調査区最高位で標高18m、最低位の沖積地に面する部分で標高11mである。

調査の結果、起伏に富んだ地形のうち、中央平坦部から奈良～平安時代(以下、古代という)の井戸跡1基、土坑2基、中世の掘立柱建物跡1棟が、北側の中腹斜面から中世の火葬墓19基が、南側の丘の上から古代～中世の火葬墓3基、時期不明の土坑3基が、丘下から中世の井戸跡1基、時期不明の土坑2基が、その丘の北西谷部から古代の井戸跡3基と土坑1基が検出された。遺物は、縄文時代・古代・中世・近世の遺物がコンテナ20箱ほど出土している。掘立柱建物跡は、桁行14間(15m)×梁行7間(12m)の大きい建物跡である。中世の火葬墓は、直径40～60cmの範囲に炭が集中しその中に焼骨が混在しているもので、そのうちの1基から出土した銅銭(政和通宝)により、室町時代のものと推定される。以上のことから本遺跡は、縄文時代・古代・中世の人々の生活の舞台となった遺跡であることが判明した。しかし、多くの古代の遺物が出土したのに対し、該期の遺構は井戸跡2基しか検出されず、この期の人々の居住地は調査区外にあるか、もしくは中世の生活面の造成によって失われたものと考えられる。

かやかりざわ
萱刈沢I遺跡

所在地	山本郡八竜町鶴川字萱刈沢7-2外	事業名	国道7号琴丘能代道路建設事業
調査期間	平成3年10月14日～11月15日	事業関係機関	建設省東北地方建設局能代工事事務所
調査面積	800m ²	調査担当者	庄内昭男・小畑 巖

遺跡は、能代市から八竜町にかけての日本海の汀線から東側に約3kmにある成合台地と呼ばれる海成段丘上に立地する。成合台地は、西側から枝状に入り込む大小の沢によって南北に画される形になっており、画されたそれぞれの台地上には多くの遺跡が存在する。萱刈沢I遺跡も、寒堤を含む幅80～200mの沢によって北側の萱刈沢II遺跡と画され、本遺跡の西側には県指定史跡の萱刈沢貝塚がある。今回の調査区は、萱刈沢I遺跡の北西端部に当たり、北側の沢に面した台地端部とその斜面である。平成元年度に発掘調査された萱刈沢I遺跡の調査地点とは、沢を挟んで南北に向かい合う形である。

調査の結果、遺構は検出されなかったが、斜面を主にコンテナ160箱に及ぶ多量の縄文土器や石器などが出土した。全遺物の9割以上は後期のもので占められ、深鉢形・鉢形・壺形土器をはじめ、ミニチュア土器や鐙形・円盤状などの土製品・土偶等の他、石鏃・石筥・石皿等の石器がある。以上のことから、本遺跡における今回の調査区は、縄文時代後期の生活用具の廃棄場所であると考えられる。

さんのうたい
山王岱遺跡

所在地	大館市餌釣字山王岱12-2外	事業名	国道103号道路改良事業
調査期間	平成3年5月13日～11月9日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	10,200m ²	調査担当者	櫻田 隆・高橋 学・小山内透・藤岡光男・石川真一

遺跡は、大館市街地の南東側に広がる標高70～80mの台地群のうち、最も南側の台地上に立地する。この台地は、東側を餌釣沢、西側をV字状の沢で画されており、その内側の菱形を呈する部分（南北約500m、東西約300m）が遺跡の範囲と考えられる。本遺跡はこれまでに第1次（昭和62年）・第2次（昭和63年）の発掘調査が行われており、今回が第3次に当たる。1～3次の調査で、遺跡のほぼ中央部を東西に発掘調査したことになる。

1～3次の調査の結果、縄文時代～近世にわたる以下のような遺構が検出された（カッコ内は、1・2次調査で検出された遺構数である）。縄文時代では中期を主とする竪穴住居跡14（2）軒、晩期のフラスコ状土坑1（1）基、土坑5基、土器埋設遺構1基、平安時代では竪穴住居跡5（1）軒、土坑9（3）基、竪穴状遺構1（1）基、焼土遺構1基、古代～中世では井戸跡1（1）基、土坑5基、焼土遺構2基、溝状遺構19条、中世では掘建柱建物跡43棟、竪穴建物跡2（1）棟、空堀跡3（3）条、土塁8条、橋跡2基、土坑1基、柱列11条、中世～近世では火葬墓3（3）基、被火骨出土遺構4（4）基、溝状遺構97条があり、この他時期不明及び近・現代のものとして土坑22（10）基等がある。第3次調査で出土した遺物は、縄文時代（前期～晩期）・平安時代・中世・近世のものがコンテナで38箱ある。以上のことから山王岱遺跡は、主に縄文時代（中期～後期初頭）と古代（平安時代）の集落跡として、中世では広大な面積の館跡及び墓地として利用されていたと考えられる。

うわの
上野遺跡

所在地	大館市池内字上野270外	事業名	国道103号道路改良事業
調査期間	平成3年8月19日～11月22日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	2,830m ²	調査担当者	高橋 学・石川真一

遺跡は、山王岱遺跡の西方約500m、大館市街地南東側に広がる標高70～75mの台地上に立地

する。台地上面とその南側に広がる米代川の沖積地との比高差は約15mである。遺跡の範囲は、南北を底辺（60m）、東西を高さ（約200m）とする略二等辺三角形を呈する部分と推定され、今回の調査区は遺跡の南東部を除く部分である。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡13軒、土坑73基、屋外炉5基、溝状遺構1条、平安時代の竪穴住居跡1軒、焼土遺構1基、時期不明の溝状遺構17基が検出され、縄文時代前期～後期・平安時代・中世の遺物がコンテナ15箱ほど出土した。縄文時代の竪穴住居跡は、前期と中期が各々2軒で、他は後期前葉のものである。前期及び後期と考えられる土坑の大部分は、断面形がフラスコ状もしくは袋状を呈し、その大半は調査区西部のなだらかな尾根状部分に集中している。平安時代後葉の竪穴住居跡は浅い沢状部分にあり、一辺3.5mの方形を呈し、東辺に石組みのカマドが取り付け、カマド付近から2個体の擦文土器（甕）が把手付土器等と共に出土している。以上のことから本遺跡は、縄文時代では前期と後期に中心をおく集落及び食糧貯蔵場で、平安時代後葉には北海道と強い関係をもつ人々の居住地であったと考えられる。

かみひじり
上 聖 遺 跡

所在地	大館市曲田字上聖3-2	事業名	曲田地区農免農道整備事業
調査期間	平成3年5月10日～6月8日	事業関係機関	秋田県農政部北秋田農林事務所
調査面積	760m ²	調査担当者	谷地 薫・柴田陽一郎

遺跡は、大滝温泉の北西側、米代川の北側河岸段丘上に立地する。この段丘面の標高は91～92mで、南側下方の沖積地との比高差は約15mである。遺跡の占地する段丘面は、小さな侵食谷によって北西から南東に斜めに開析され、全体としては南東に張り出す舌状台地となっており、今回の調査区はその南縁と中央部の一部に当たる。

調査の結果、縄文時代の土坑7基、配石遺構1基、焼土遺構1基、時期不明の土坑10基の計19遺構が検出され、縄文時代前期～晩期の遺物がコンテナで3箱出土した。遺構の大半は舌状台地の南縁に集中しており、土坑のうち6基は断面形が袋状を呈するもので、後期～晩期のものと推定される。焼土遺構からは、縦型石匙など5点の石器が一部火熱を受けた状態で出土した。以上により本遺跡は、縄文時代前期の狩猟地、中期の集落の周縁部、後期から晩期の食糧貯蔵場という変遷をたどり、そのいずれかの時期に屋外の地床炉も使われたと考えられる。

いえのうしろ
家ノ後遺跡

所在地	大館市曲田字家ノ後96-2	事業名	曲田地区農免農道整備事業
調査期間	平成3年6月10日～11月15日	事業関係機関	秋田県農政部北秋田農林事務所
調査面積	2,800m ²	調査担当者	谷地 薫・柴田陽一郎

遺跡は、上聖遺跡と同一の段丘上にあり、上聖遺跡の東側約100mに位置する。遺跡の範囲は、南側が沖積地に面した崖面、他の2方が小さな沢によって画された東西170～200m、南北60～80mの舌状台地とその斜面と推定され、今回の調査区は、台地南縁部とその斜面である。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡4軒、土坑122基、焼土遺構5基、溝状遺構2基と捨て場2カ所が検出され、縄文時代中期～晩期の遺物がコンテナで548箱出土した。全遺構の9割を占める土坑の大多数は台地南縁にあり、計4カ所の集中部が存在する。東側から、平面形が楕円形を呈する土坑群2カ所、断面形が袋状の土坑群、柱穴様の土坑群の順である。楕円形を呈する土坑の大部分は土壌墓と見られ、ベンガラ散布が見られるものもあり、袋状土坑の中にはほぼ完形の土器数個体が入れたものなどがある。また、崖面である急斜面中腹の4カ所からは、5基の粘土採掘坑が検出された。急斜面とその下方の沖積面にかけては、大量の遺物が出土し、この部分が捨て場であることが判明した。以上のことから本遺跡は、縄文時代後期後半～晩期前半の墓域を主とする遺跡と考えられ、未調査区である台地北側には、該期の居住域が存在することも予想される。

(3) 現地説明会

発掘調査の成果を、現地で広く県民に公表し、郷土の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めていただくための説明会を、秋田県教育委員会関係では以下の3遺跡で行った。

山王岱遺跡

期日 平成3年8月10日(土)

払田柵跡

期日 平成3年10月19日(土)

虫内I遺跡

期日 平成3年11月2日(土)

2 平成3年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

平成3年度に県内で実施された遺跡発掘調査について、調査の概要を広く県民に報告する会を、以下のとおり行った。なお、報告遺跡及び展示遺物は、米代川の中世を主テーマとし、秋田県教育委員会が調査主体であるものに限らず、講演に深く関連する調査例についても併せて行った。報告会への参加者は、大館市・北秋田郡内の市町村をはじめ、県内外から2日間で約400名もあり、非常な盛会であった。

- (1) 主催 秋田県埋蔵文化財センター
- (2) 期日 平成4年3月7日(土)～8日(日)
- (3) 会場 大館市民文化会館(大館市桜町南85-1)
- (4) 対象 一般県民
- (5) 次第

3月7日(土)

開会挨拶(富樫泰時 埋蔵文化財センター所長)

平成3年度県内発掘調査の概要(大野憲司 学芸主事)

報告

- 1 家ノ後遺跡の調査(柴田陽一郎 文化財主任)
- 2 虫内I遺跡の調査(高橋忠彦 文化財主任)
- 3 払田柵跡の調査(児玉 準 文化財主任)
- 4 待入III遺跡の調査(庄内昭男 文化財主査)

3月8日(日)

- 5 上野遺跡の調査(高橋 学 学芸主事)
- 6 大館地方の中世遺跡(大館市教育委員会主査 板橋範芳氏)
- 7 北秋田の中世城館(櫻田 隆 文化財主査)

講演

講師紹介

演題 「米代川流域の中世社会」

秋田大学教授 遠藤 巖 氏

閉会挨拶

平成3年度 埋蔵文化財発掘調査報告会から



講演をする遠藤教授



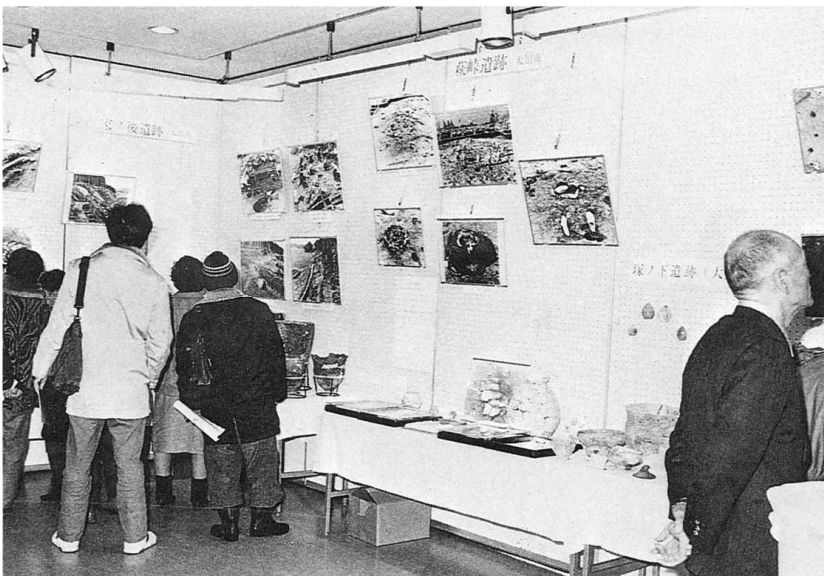
「大館地方の中世遺跡」
の報告



報告・講演を熱心に
聞く参加者



遺物・写真パネルが
並べられた展示会場



遺物・写真パネルが
並べられた展示会場



遺物の説明を聞く
参加者

3 平成3年度 特別収蔵庫観覧者数

(1992.3.18現在)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月計		246	326	401	352	495	490	505	497	25	36	57	27	3,457
内 訳	県内	231	276	357	325	363	466	487	491	25	34	54	25	3,134
	県外	15	50	44	27	132	24	18	6	0	2	3	2	323

4 平成3年度 刊行報告書一覧

秋田県埋蔵文化財センターが発掘調査を行って、平成3年度に刊行した発掘調査報告書は、以下のとおりである。

- | | |
|----------------------|--|
| 秋田県文化財調査
報告書第219集 | 曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I
—上聖遺跡— |
| 秋田県文化財調査
報告書第220集 | 秋田ふるさと村（仮称）建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
—富ヶ沢 A・B・C 窯跡 田久保下遺跡 富ヶ沢 1号～4号塚— |
| 秋田県文化財調査
報告書第221集 | 国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 V
—山王岱遺跡— |
| 秋田県文化財調査
報告書第222集 | 国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 VI
—上野遺跡— |
| 秋田県文化財調査
報告書第223集 | 山崎遺跡発掘調査報告書 |
| 秋田県文化財調査
報告書第224集 | 秋田外環状道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 II
—待入 III 遺跡— |
| 秋田県文化財調査
報告書第225集 | 弘田柵跡調査事務所年報1991
弘田柵跡 —第88次～91次調査概要— |
| 秋田県文化財調査
報告書第226集 | 遺跡詳細分布調査報告書 |

秋田県埋蔵文化財センター職員録
(平成3年度)

所 長	富 樫 泰 時
副 所 長	木 村 登
主 査	佐 田 茂
主 任	佐々木 真
学芸主事	大 野 憲 司
学芸主事	榮 一 郎
学芸主事	利 部 修
学芸主事	小 畑 巖
学芸主事	高 橋 学
学芸主事	谷 地 薫
学芸主事	武 藤 祐 浩
文化財主査	庄 内 昭 男
文化財主査	櫻 田 隆
文化財主任	児 玉 準
文化財主任	柴 田 陽一郎
文化財主任	高 橋 忠 彦
文化財主任	小 林 克
文化財主事	栗 澤 光 男
非常勤職員	佐 藤 一 誠
非常勤職員	高 橋 中 二
非常勤職員	小山内 透
非常勤職員	小 林 恵美子
非常勤職員	藤 岡 光 男
非常勤職員	石 川 真 一
非常勤職員	工 藤 晃

秋田県埋蔵文化財センター年報10

(平成3年度)

発行 平成4年3月

秋田県埋蔵文化財センター

秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地

電話 0187-69-3331

印刷 合資会社 精巧堂印刷所